

# 高齢者の移動に関する現状と課題

公益財団法人 茨城県老人クラブ連合会  
会長 坂本 鉄夫

## 1 移動に関する現状

我々、老人クラブは様々な研修会や大会を開催し、高齢者の生きがいと健康づくりに努めてまいりましたが、自宅から会場までの移動手段の確保が困難で、事業へ参加できない方が増えました。

手段として多いのは、会員の運転する自家用車に乗り合いで、会場まで移動しておりますが、今は、本人だけではなく家族から、「事故が心配なので人を乗せることをしないでくれ」と言われてしまうという声が多くなりました。

## 2 移動手段がないことによる影響

- 市町村全域でのスポーツ大会や研修会の参加者が減少傾向。
- 市町村全体のスポーツ大会等の開催をあきらめた。
- 他の地域の方との交流が出来にくくなり、外出の機会が減った。
- 身近な相談事も、事務局が遠くなり相談に行けない。

### 3 活動場所までの移動サポート例（R4 県老連実態調査より）

#### （1）クラブとしての仕組み整備

- ・ 地域で実施する行事などは、運転可能な会員に同乗し参加している。遠方の場合はタクシー利用などで参加している。お互い声かけを行うのが精一杯。
- ・ 会員の平均年齢が85歳になり、車の運転が厳しい状態になり、各イベントやクラブ活動に参加することが難しくなった。今後はタクシー等利用し、極力参加するように話し合いを行った。費用はクラブで全額負担をする。

- 現在は会員が自主的に送迎を行っているが、いずれ送迎についてルールを作る相談はしている。
- R3年4月より「移動支援事業」を開始した。実施にあたり、送迎対象の活動（月2回、年25回くらい）と送迎区間（自宅と会場）、送迎者の資格と燃料費の会負担、送迎希望者には事故時賠償の了解を得て無料送迎する「移動支援指針」を作り、年度初めに送迎者と送迎希望者を募集した。初年度は「人に迷惑を」との意識か利用者はいなかったが、次年度以降も継続の予定。
- 悪天候の日のみ会員が送迎をしている。

## (2) 行政など外部の支援

- 社協による送迎車を月1回利用。
- 自宅まで行政バスが迎えにくる。
- 乗り合いタクシーでくる。(家族の送り迎えも)
- 地域コミュニティ協議会「お助け隊」を利用。

## 4 課題

### 〔公共交通利用の場合〕

- ・ バス路線が無くなり、鉄道も含め本数が減った。
- ・ バス停まで遠い。(鉄道の駅も同様)
- ・ 乗り降りに手助けが必要。

### 〔自家用車利用の場合〕

- ・ 交通事故などの時の同乗者への対応が心配。
- ・ 会員の高齢化で送迎をお願いできる方がいない。
- ・ 気軽に同乗を頼める人が身近にいない。
- ・ 他人を同乗させることを家族から止められる。